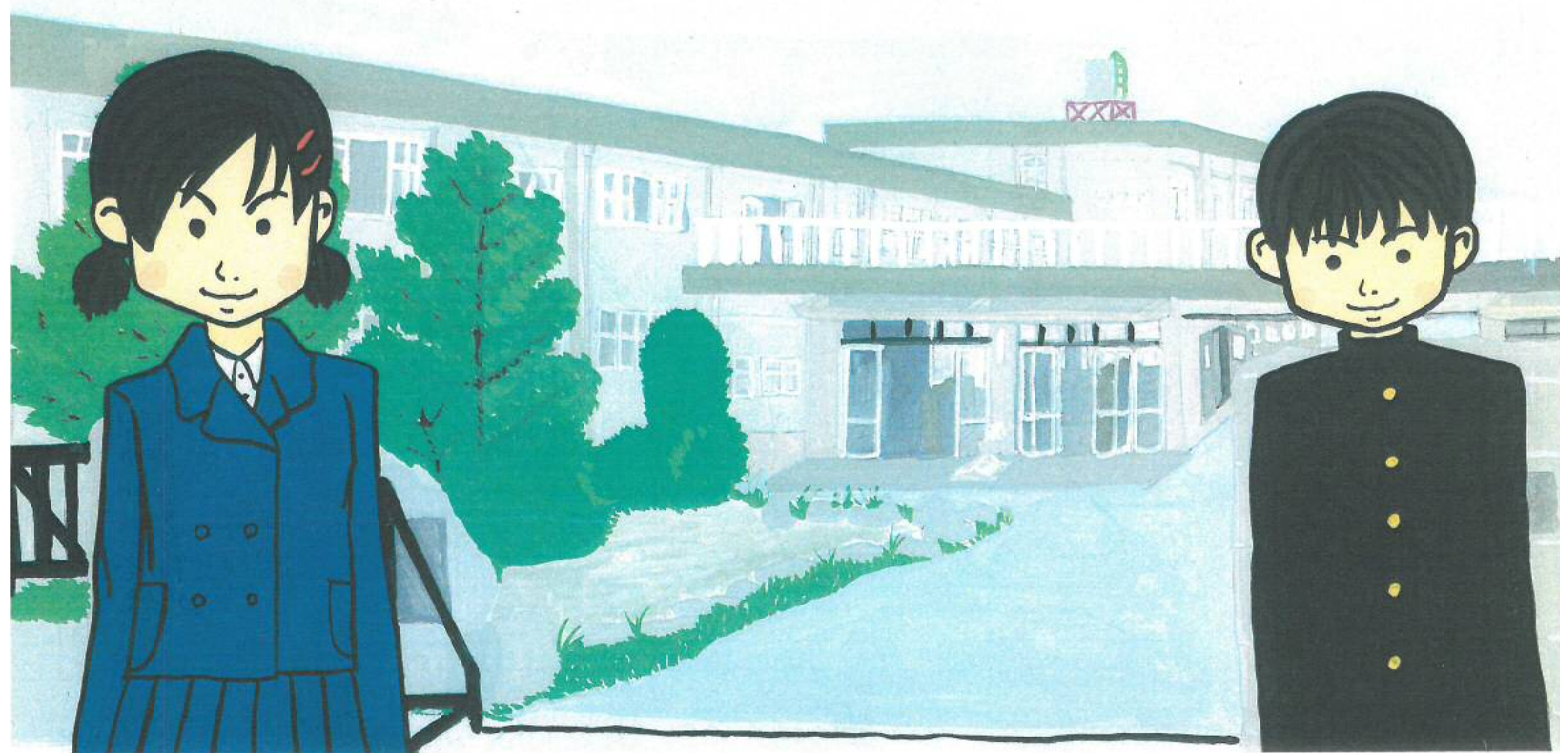




山手中学校50周年記念誌





校歌

作詞 木俣 修
作曲 平井康三郎

一、
鈴鹿山麓 雲は勝り
海蔵川に 春は煙る
古城の址の きよきこの丘辺
わが学び舎の いらか高し
究めよ ともに 発刺と
かかげよ つねによき理想
明日あり 直ぐに伸びゆかん
われら 四日市 山手中学校

二、
伊勢の夏潮 風に薫り
いぬ梨青葉 真日にさやぐ
港のとよみ 指に呼ぶ丘辺
わが学び舎の 窓は明かる
鍛えよ つとに自らに
保てよ さらによき健康
明日あり つよく羽ばたかん
われら 四日市 山手中学校

三、
陶の萬古は いよいよ栄え
垂坂山に 人はつどう
み祖の守りかたき この丘辺
わが学び舎の 鐘はひびく
磨けよ 今日もひとすじに
果せよ 肩に負う使命
明日あり 広き世にいでん
われら 四日市 山手中学校



目次

1. 実行委員長あいさつ 1
2. 学校長あいさつ 1
3. 市長祝辞 2
4. P T A会長挨拶 3
5. 祝 辞 3
6. 思い出 6
7. 沿革史 16
8. 歴代校長 23
9. P T A役員・生徒数の推移 24
10. 思い出のアルバム 26
11. 編集後記 30
12. 広 告



五〇周年を迎えて

五〇周年記念事業実行委員会

実行委員長 宮 嶋 邦彦

(第二回卒)

山手中学校は今年、創立五〇周年という記念すべき年を迎えました。我々卒業生にとりましては、この上もない喜びです。

昭和二年四月一日、敗戦の現実に直面し、打ちひしがれた日本の将来を模索する中から、新制中学校が発足しました。

我が山手中学校も昭和二年四月一日、羽津、海蔵地区を学区に、四日市市立北中学校として産声を上げました。その後、

昭和二年二月二〇日に四日市市立山手中学校と改称され、以来五〇年の年月が流れたわけです。

開校当時の山手中学校の生徒や先生をはじめ、関係の方々の新制日本を創りあげるのでという希望と気迫が、新しい教育に息吹と活力を与えたのだと想像されま

す。
以来五〇年、歴代の校長先生をはじめ諸先生、PTAの皆様、そして何よりも生徒諸君、山手中学校に関わった様々な人たちが、それぞれの想いで、山手中学校の発展を祈ってきたことでしょう。その結果、山手中学校は学習、スポーツの両面において常に四日市の教育界をリードする学校として成長してきました。

一口に五〇年と申ししても、半世紀にわたる年月、卒業生の人数、関係の方々



五〇周年を迎えて

四日市市立山手中学校

校長 桐 生 定 巳

など、いろんなことを思い巡らした時、それは大変な年月であると思います。それだからこそ今ここに山手中学校が五〇周年を迎えることができたことに、非常な喜びを感じるわけです。

五〇年前と比べると私たちの回りは物質的に大変豊かになりました。しかし反面、最近のマスコミをにぎあわせているような中学生を巡る様々な問題が起こっていることも事実です。山手中学校が諸先輩の良き伝統を受け継ぎ、物質的な豊

かさから精神的な豊かさを求めて、ますます発展することを祈らずにはいられません。

最後に皆様のご支援・ご協力を感じ、今後山手中学校を暖かく見守って下さることをお願いし、さらに在校生の皆さんに五〇年という伝統の重みをしっかりと受け継いで、さらに素晴らしい山手中学校に発展させていただくことをお願いして、五〇周年記念事業実行委員長のご挨拶とさせていただきます。

終戦後間もない昭和二年四月十五日に、新しい教育制度の実施に伴い四日市市立北中学校の設立が認可されました。そして海蔵・羽津両小学校の校舎の一部を仮校舎として開校しました。その後、昭和二年二月二〇日に四日市市立山手中学校と改称して、ここに創立以来五〇年を迎えることになりました。

創立当時は、戦後の混乱まだ治まらず、学校施設の不備、教材の不足等の悪条件が山積みしておりましたが、教師と生徒、そしてPTAが懸命の努力を重ね、今日の伝統ある山手中学校の名誉と校風を築き上げてまいりました。この間一三、六四〇名という多くの人材を世に送り出し、卒業生各位が各界で目ざましい活躍をされていることは、誠に喜ばしい限りであります。

開校当時と今とでは、学校の周りもすっかり姿を変えてしまいました。修学旅行、運動会、クラブ活動等アルバムの写真から、そこには着実な五〇年の歩みが確かなものとしてみられます。先輩の教職員の方々や卒業生の皆さんの山手中創りにかけた情熱、努力のあと、精進の姿は、深く刻み込まれた歴史の一コマになっております。

昭和五四年に羽津中学校と分離しましたが、現在でも生徒数六六五名、十八学級を有する大規模校でもあります。開校以来の校訓である「自主・創造・協力」のもと、教育目標である「人間性を豊かで、仲間と共に進んでやりぬく生徒を育成する」の達成に向けて、常に教育内容の工夫改善に努めてまいりました。基礎基本の徹底と生徒一人一人の良さを伸ばす学習指導等を、各教科に展開しております。クラブ活動や生徒会活動も年々盛んになっており、平成九年度は剣道部と陸上部が全国大会に出場しました。会の傾向の中で、自分のことだけでなく、クラスや学年のこと、学校全体のことに目を向けて、将来、人や社会のために奉仕することのできる生徒の育成にも力を入れており、徐々に浸透する様子を見て喜んでいく次第であります。

五〇年を一つの節目として、さらに飛躍しようと生徒一同と教職員は燃えています。PTA、地域の方々、関係の皆様方の変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。五〇周年記念の言葉といたします。



祝 辞

四日市市長

井 上 哲 夫
(第七回卒)

学校創立五〇周年を迎えたわが母校「山手中学校」に改めて喝采を送りたい。

図らずも、四日市市が市制一〇〇周年の年に、創立五〇周年とは私にとつて感慨がひとしおです。

私は、山手中学校に昭和二六年四月に入学し、昭和二九年に卒業しました。当時の校舎やグラウンドの整備はまだ十分

ではなく、今の学校をめぐる環境や周辺の風景とは大きく異なり、また、中学生をめぐる環境も私の時と今では、まるで違うのではないのでしょうか。確かに、当時は毎日、腹をすかしながらも遊びに夢中になり、また戦後の民主教育の中で「不登校」も知らずに元気に通学しましたこ

とは間違いないことです。萬古を生業とする家の子どもが多い学区で、下校すると家の仕事の手伝いが、ほとんどみんなを待っていた時代でした。塾と名のつくものは珠算塾程度でしたが、私は行くこともなく、草野球や夏の水泳(三滝川、海蔵川や午起海岸)に熱中した記憶は、今も鮮やかに蘇ります。中学校の三年間に出会った先生方は今もなつかしく思い出します。お付き合いもずっと続く先生がたくさんおみえになります。小学校時代や高校・大学時代と比較すると、思い

出す先生は不思議と中学校時代の恩師です。やはり多感な少年時代であったからでしょうか。そうしてみると、私にとつて中学生時代というのは人生の中では誠に意義深く、また影響力強く、人との交わりの重要さも一番大切な時期でありました。

私は、中学生の時、「将来は弁護士になりたい」との夢を膨らませることができました。家業の萬古の手伝いから民間企業のサラリーマンを経て、弁護士となる夢を実現することができ、今新たな夢に挑戦しはじめました。

これからも全力投球、完全燃焼をモットーに、与えられた職務に励むことを母校創立五〇周年に誓うとともに、在校生諸君の今後の健闘と、先生をはじめ、PTA等関係者の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念し、祝辞とさせていただきます。

このたび、四日市市山手中学校が創立五〇周年を迎えられ、ここに本校のこれまでの歩を記した「記念誌」が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。本校は、昭和二二年に四日市市立北中学校の名称で、海蔵・羽津地区を学区として開校されました。翌年、山手中学校に改称された後、昭和五四年に羽津中学校と分離し、現在に至っております。その間本校は、校訓「自主・創造・協力」のもと、学校教育目標「人間性豊かで、仲間とともに進んでやりぬく生徒を育成する」の達成に向けて、絶えず教育内容の工夫改善に努めてこられました。

我が国では、今日、解決に向けた取り組みが強く求められている教育上の課題の一つに、いじめ・登校拒否の問題があります。こうした問題の背景には、学校・家庭・地域社会のそれぞれの要因が複雑に絡み合う中で、子供たちの自立の遅れや社会性の不足、基本的な倫理感が十分に養われていないなど、現代の日本社会全体に投げかけられた、様々な問題があるとの指摘がなされています。

これらの今日的課題に対し、本校ではいち早く、生徒の自主的・主体的な活動を重視して、人権尊重の精神の涵養及び、



山手中学校

五〇周年に寄せて

四日市市教育委員会

教育長 佐々木 龍 夫

国際理解教育の推進に取り組みされました。とりわけ、四日市朝鮮初中級学校との交流会では、本校生徒会が先駆的な役割を果たされ、参加校の増加とともに、「和・ウジョン・ハーモニー」での友情の輪も広がっていると聞いています。

また、平成八年度から、文部省「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」に積極的に取り組まれ、生徒をはじめ、保護者、教職員の利用が図られています。不登校・いじめ問題のみならず、生徒の問題行動に対するカウンセリングにも効果をあげられ、生徒指導の新しい方向を示すものとして、今後の成果には、さらに大きな期待が寄せられることと確信いたします。

この栄えある五〇周年を契機に、地元の方々をはじめ学校関係者の皆様におかれましては、「心豊かな子供の育成」にむけて一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、山手中学校のますますの御発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。





五〇周年を迎えて

四日市市山手中学校

PTA会長 小林 孝

数々の歴史を積み重ね、伝統ある山手
中学校が五〇回目の卒業生を送りだす意義
ある年を迎えました。

学校沿革史を見ますと、本校は昭和二
二年四日市市立北中学校（昭和二三年四
日市市立山手中学校）として開校、五四
年には羽津中学校開校に伴い、海蔵・大
谷台小学校からの学区となり、多数の卒
業生を世に送りだして来ました。その方々
は、地域はもとより県内・県外に於いて
幅広く活躍されております。

長い歴史の中、今の山手中学校が在る
のも地区の方々や関係各位のたゆまぬ温
かいご支援があったからこそだと思いま
す。

現在、PTA役員を仰せつかっている
私は、残念ながら山手中学校の卒業生で
はありませんが、初めての関わりはおよ
う二五年前でした。会社に就職して間も
ない頃、寮対抗野球大会の練習で日曜日
の早朝、山手中学校のグラウンドを使わ
せていただき、心地よい汗を流したのが思
い出されます。そして、大谷台小学校区に
住居を構え、我娘の入学と同時に私もP
TA役員として山手中学校にお世話にな
っております。

戦後、日本の半世紀は著しい発展をと

げてまいりました。東京オリンピック、

日本列島改造論等々による産業構造の変
化に伴い日本は先進国と言われるよう
になりましたが、それに伴い子供達を取り
まく環境も随分変わって参りました。そし

て、これからも色々な問題が出てくるか
と思います。又、教育も変わっていくで
しょう。しかし、どんなに厳しい環境にな
っても二世紀を生き抜く子供たちには、

豊かな心を持ちつづけて欲しいものでは
その為にも、学校・保護者・地域の皆様
のより一層のご支援とご協力をお願い
いたします。

最後に、この度の五〇周年記念事業に多
大なお力を頂きました方々に厚くお礼申
し上げます。

設立五〇周年おめでとうございます。
もう五〇年か、何度かの増改築を経なが
ら、卒業した者が一万余名か。創設時か
ら見守ってきた年輩の私たちはそう思う
のである。

最近の十年間、毎年体育祭と卒業式に
は顔を出し、活動の様子に接してはきた
が、それは一年間の節目で必ずしもふだ
ん顔ではない。如何に先生の指導が加え
られてきたか、生徒の協体制がどうだ
ったかは不明である。でも節目の成果は
日頃の積み上げとみるならば、よくやつ
ている、いい雰囲気だと評価せざるを得
ない。

人の一生は誰でも波があり、頂点を極
めてもまた次の山があるように苦難の連
続もあって鍛えられていく。長い中学校
の歴史の中ではそんな見方も出来る。谷
間にあったときの生徒には、よい思い出
はないかもしれない。でも学校を離れて
三、四〇年経つと、反対に懐かしい想
いに変容してくる。各世代の卒業生は三
年間の在学中の残像を、それぞれに描き、
或はうさ晴らしに、或は若きよき頃と、
叱られた思い出が、その人なりに生きる
力になっていると思われるのである。

学校というところは、人と人のぶつか



節目に想う

海蔵地区連合自治会長

館 増 男

危機的な場面の少ない現代生活が無難
に切り抜けることは易い。適度な抵抗と
障碍があつてこそ意義があると思う。か
つて、朝日新聞の論壇を読んだことがあ
る。阪神大震災のようなショックからの
心のケアは、「三つのT」が必要だと。
即ち、涙、会話、そして時間だと。涙を
流し、悲しみをだれかと分かち合い、時
間をかけて傷を癒すことだと。喜びのと
きも同じである。心に響いた出来事を、
涙して語り合うそんなことが、家庭や学
校にあるでしょうか。とりわけ心の豊か
さが呼ばれるとき、心奥に訴える響きを
誰が奏でるのか。それは、その生徒にか
かわる家庭であり、学校そして地域であ
ろう。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

三、四〇年経つと、反対に懐かしい想
いに変容してくる。各世代の卒業生は三
年間の在学中の残像を、それぞれに描き、
或はうさ晴らしに、或は若きよき頃と、
叱られた思い出が、その人なりに生きる
力になっていると思われるのである。

学校というところは、人と人のぶつか

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。

人と人の結びつきが薄くなりつつある
世情、よりよいふれあいを地域社会が目
指すのもそこにある。五〇周年の節目に
そんなことを想っている。



祝 辞

大谷台小学校区自治会連絡協議会

会長 若 林

(創立時の恩師)

早いものですね。山手中学校が創立されて五〇年を迎えました。このよろこばしいときに大谷台小学校区自治会連協を代表し祝辞を述べる機会を得ましたことは、誠に光栄に思います。

戦争の廃虚から二年、昭和二二年四月一五日、四日市市立北中学校(仮称)と称し、旧羽津小学校校木造校舎と海蔵小学校バラック講堂をお借りして、産声を上げました。このとき、はからずも新卒教師として赴任いたしました。

当時は、市・郡部を問わず、新校舎の建築や校章、校旗、校歌の作成を競い、自慢しておりました。

当時、子供の遊びと云えば、ソフトボール。各学級に必ずソフトボール、バットを配って昼休みに放課後にとソフトボールに熱中しておりました。「六・三制ソフトばかりが上手くなり」という川柳もあつたくらいです。

羽津中学校の独立で、一部山手中学校の校歌も手直しされました。

あの当時、校歌作成の依頼に上京した辻本会長、大森宗治副会長、海蔵史編纂員の内田金次さん、羽津史編纂員の梅本茂一さん、阿部十三先生、杉谷美登先生も他界され、私ひとり残ってさみしくな

りました。想い出に耽り過ぎました。

今年も山手中学校の運動会を観に行きました。グラウンド一杯に繰り展げる熱戦や競技をふと自分の若い日に置きかえて、時の経つのも忘れてみていました。生徒の皆さんが生き生きとして、自らの手で

大会を企画・運営し、澁刺と参加している状況を拝見いたしました。そして「山手の生徒はやるナー」とひとり眩き感心させられました。ご父母のご観覧も多く、私達の時代には無かったことだとびつくりいたしました。

さて、山手中学校の生徒諸君、今の時代は、教育への関心も強く、これからの若者への期待も大きいと思います。どうか、おひとり・おひとりが個性溢れる人間に成長し、生命を大切に『共に生きる』社会の一員となつていただきたいと希い祝辞といたします。



祝 辞

四日市市海蔵地区市民センター

館長 矢 田 信 吾

このたび山手中学校がめでたく五〇周年の記念すべき日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

山手中学校は戦後間もない昭和二二年に四日市市立北中学校として開校、以来一万三千余名が社会に巣立たれ、社会や地域で活躍されています。今日の地域の繁栄は卒業生の皆さんが引き継がれ、築かれたものと申せましょう。

これもひとえに歴代校長先生や職員をはじめ関係各位の教育に対する熱意と努力、子供に対する愛情のたまものと敬意を表する次第です。

この五〇年間、戦後の混乱期から経済発展を遂げた今日まで社会は大きく変化してまいりました。とくに、昭和四〇年代後半以降、科学技術の急速な発展、高齢化、核家族化や少子化の進行、国際化、情報化の進展など社会は大きく変化してまいりました。

こうした子供たちを取り巻く環境の変化に伴い、子供たちの持つ価値観やライフスタイルも大きく変化してまいりました。しかし、「個性や創造性を伸ばし心豊かなたくましい青少年を育成する」という目標は今も変わりなく受け継がれています。



ご承知のとおり本市も今年は市制百周年を迎え市内各所ではこれにちなんだイベントが催されていますが、五〇周年、一〇〇周年は単に区切りの「年回り」であり、一過性の行事であつてはならないと思います。毎年の積み重ねが総体的な評価となり輝かしい歴史を刻むものです。どうかこの五〇周年を契機として山手中学校並びに地域社会のさらなる飛躍発展に向けて引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げます。皆様方の益々のご健勝を祈念しましてお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

初代PTA会長

味香 太郎

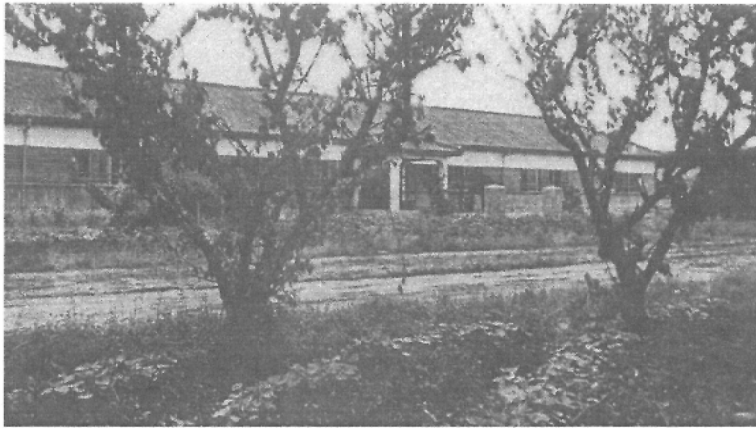
創立五〇周年おめでとうございます。私が初代のPTA会長といましても混乱の時代で、教育という高尚な問題をやるには何かと難かかった時代だと思います。

終戦も間もない時に、PTAが発足して整った行事はあまりありませんでした。終戦当時ですから質・量ともに満足したものはなく、色々な考え方もあって人間的にも親密にいつていなかった事もありました。

当時の感想としては、とにかく無我夢中で進んでいったという事です。思いおこせば最初の卒業式は、海蔵地区でやりましたが、小学校が焼けてしまつて全部の生徒をあつめたのはトタン屋根の講堂で、下はもちろん普通の土間上で、本当にお粗末な事でした。今考えたら想像もつかない時代だったのです。

五〇年たつと世の中は大いに変わりました。考えてみますと、いつの時代も子供達はあまりかわらないのじゃないかと思ひます。そういう時代の流れの中で学校の内容は大いに変わっていますが、今も昔も変わりのない純真な子供達であつてほしいと思ひます。五〇周年を期に山手中学校がますます発展しますように、

在校生のみなさん、卒業生のみなさん、さらに、先生やPTAをはじめ、地域の方々の御支援ご協力をより一層をお願いして五〇周年のお祝いのごことばとしたいと思います。



祝 辞

創立五〇周年を迎えにあたり、関係者のご尽力で記念誌の発行やさまざまな記念事業を企画され、新しい世紀に向けてすばらしい第一歩を歩まれたことに敬意を表し、合わせて心よりお祝いを申し上げます。

本市は中部経済圏を担う門戸として、我が国有数の港湾都市であり、教育・文化の街でもあります。近年の小子化、核家族化など環境変化の中で「豊かで活力のある社会づくり」に対する取組は大きな社会的課題でもあります。

この度の記念事業をとおし、山手中学校から新たな情報発信をし、更なる発展をされて魅力と活力に満ちた産業と文化のまち「四日市」の中心となれることを祈念致します。

山手中学校同窓会 小井 道 夫

(二十四年卒)

伊 藤 正 巳

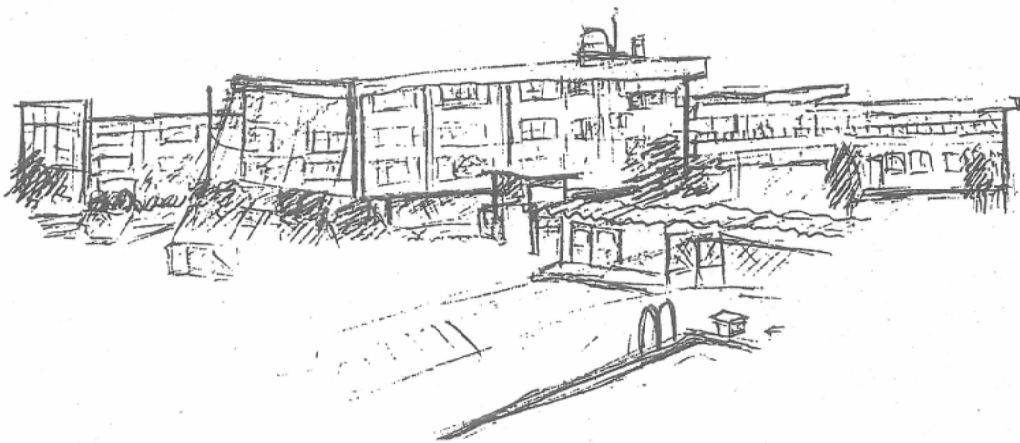
(三十三年卒)

笹 岡 秀 太 郎

(四十一年卒)

谷 口 廣 睦

(二十三年卒)





初代校長の思い出話

初代校長

堀田 吉雄

昭和二二年四月一五日付で、四日市立北中学校長の辞令を受けとった。当時は敗戦直後の混乱期で、食料も不足、万事がドサクサしていた。

後に山の手中学と改称されたが、まだ校地も校舎もなく、割りあてられた教員も定員の半分ぐらいに過ぎず、残りは、校長が探し出せという有様であった。山の手中学の校区は、海蔵と羽津の二地区であった。海蔵は万古焼の窯元の多い地区、羽津は純農村地区で、まるで性格を異にしていた。

いちおう両地区の小学校の一部を借りて授業を行なったが、今から見ると、まったく混沌としていた。教頭は海蔵小の西俊夫が割あてられた。この人は、実に有能の人、ときはきと仕事を進めた。

校長の最大の仕事は、校地の造成で、両地区の地主から寄附を取りつけることであった。実に大変な仕事で、毎日私は両地区の有力者のお宅を訪れ、懇談を重ねたのである。

生徒の教育は教頭にまかせ、私は夜を日について駆けずり廻るといふ有様であった。その間一刻も早く、何とか教員をさがし求めなければならなかった。

当時の三重県の教職員課長は市川一郎で私の友人であった。敗戦後マツクアーサーが乗り込んできて、星条旗が東京の空にひるがえった。教育制度もアメリカ式になり、六・三・三制が実施されたのだ。

市川一郎にすすめられて新制中学校長に任命され、私は理想的な教育をするというような夢に浮かされたのであるが、現実はそのような甘いものではなかった。

私は師範出身でなかったし、俸給が高かったのも、地方事務所の視学はじめ、師範出の校長らにねたまれた。

昭和一八年九月三〇日付で、私は高等官七等待遇、年俸一五〇〇円を支給された。宮内省から従七位に叙すという位階もいただいていたのであった。

こういうことが、私が総スカンをくらった原因であった。私は奔命につかれ、もうへとへとで、今にもぶっ倒れそうであった。私はもう何もかも投げ出して、元の高等学校にもどりたいかった。

こんなこともあった。占領時代のあわれさ、アメリカの軍曹ぐらいの下士官が学校視察に来るといふ前ぶれがあ

った。

私はPTAの役員を集め、いかにすべきかを相談した。さいわい下士官の視察は、宴席を設けるぐらいのことで、大したことなく無事切り抜けた。もう一つ忘れ難い思い出がある。

私が苦心して集めた教員の内に、稲垣富夫という国語教諭がいた。その頃の私は、全然民族学というような新しい学問のあることを知らなかったのである。

柳田国男という偉大な日本民俗学の創始者の名前さえ知らなかったのである。

ある日のこと、稲垣教諭が校長室に来て、一冊の書物を示し、面白いから読んでみませんかといった。「地名の話そのほか」という柳田の著書であった。

彼は柳田の高弟で歌人の折口信夫に萬葉学を教えられ、後年名古屋の淑徳学園大学院博士課程の教授になった。萬葉学者である。

かくて私は、昭和二五年四月一日、三重県立桑名高等学校教諭に任命された。伊達貫一郎校長が私を拾い上げてくれたのである。

越えて二六年一〇月同校において伊勢民俗学会を創立、研究のスタートをきった。同年九月二一日東京世田ヶ谷区成城町の柳田邸を訪れ、門下の一員たることを許されたからである。

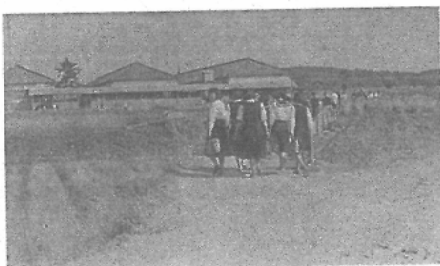
要するに、教育者としての私、山手中学校長の私は失敗というしただが、民俗学者としての私は、柳田の直弟子の一人として、成功者であった。

これも右の始末で、私の校長時代に、稲垣富夫という人に出会ったことが、機縁となったので、当時スランプ状況に陥っていた私に一大光明を与えて下さったといえるであろう。

教頭として私を助けて下さった西俊夫も早く故人となり、多くの人々が鬼籍に入ってしまった。

なお、もう一つ苦労話を付け加えておこう。当時は、戦後のインフレ時代で、しかも教員の給料は安かったため、教員の中には、給料の前借りをしたりと、校長に泣きついてくる者もあった。

校長は、そんな風に部下の生活についても援助の手を差し伸べてやらなければならなかったのである。





祝 辞

名古屋工業大学名誉教授

三栗谷 信雄

(創立時の恩師)

祝 辞

第一回卒業生

古川 隆

昭和二十二年、日本はダグラス・マッカーサーを司令官とする連合国総指令部の統治下にあった。つまり連合国による占領下にあったのである。小学校卒業生全員を入学させる義務教育機関として三年制の中学校を設立せよという命令に、教育界の混乱は想像に絶するものがあつたようだ。当地区にも羽津小と海蔵小の尋常科卒業生を一年生に、高等科生、さらに近郊の中学、中等学校、女学校等の低学年に在籍する生徒を二、三年生に編入して四日市市立北中学なるものが開校。全く予期しない教育制度の急変に教員も足りない、教育資料も足りない、教員の心構えも定かでない。PTAという何のこともなく消化できないものが組織され、とにかく父兄の方々も懸命に学校運営に協力、校舎は羽津小と海蔵小のそれぞれ一部を借用、生徒は両校に分散して曲がりなりに授業開始。

歴史に残る四日市公害の元凶臨海コンビナートもなく、三滝川口から霞が浦にいたる海岸は白砂青松、夏には学校行事として海水浴を楽しんだ。近鉄阿倉川駅の東側に学校が借用した水田があり田植え、稲刈りも経験した。垂坂山の上に対欧無線電信の受信施設があつた。高さ四〇メートルほどの鉄塔が数本建つていた。授業に出席する生徒の数が目に見えて足りない時彼らの行き先は見当がついた。探しに行く鉄塔に登って楽しそうに遊びほらけている。教室で授業を受けているよりもよほど健康的である。しかしそれもいかないのでお説教をしながら学校につれもどしたものである。

この時代、生徒は大人と違って敗戦の暗いイメージを消し去るのも早く、生々として新しい学校生活になじんできたようだ。若い力による新時代の幕明けであつた。翌三三年、四日市市立山手中学校と正式に命名された。

山手中学校創立五〇周年、おめでとうございます。あれからもう五〇年経つたのかと思うと、我々卒業生にとりましては感慨無量です。

昭和二十二年四月一日に6・3制による新しい学校制度が発足し、新制中学校が生まれました。その時は尋常高等小学校を卒業する年でした。当時尋常高等小学校の生徒は、新制中学校に編入しても、学校を辞めても良かった時代でした。だから同級生の何人かは辞めてしまいましたが、私は新しい学校制度に期待し、新制四日市市立北中学校へ編入しました。その北中学校が後の山手中学校と改称されるわけです。そのころは終戦後間もない時で、中学校専用の校舎もなく、羽津小学校、海蔵小学校のそれぞれ一部を借用して授業が行われていました。授業に必要なものも整っていないので、授業も思うように行われない状態でした。

校舎の周りにはみどりの田園風景が広がり、自然に恵まれた素晴らしい環境でした。私たちは学校を抜け出し、自然の中でよく遊びました。そんな時、先生は必ず迎えに来てくれました。学校へ向かう道すがら先生と一緒に、学校のこと、家のこと、将来の日本のことなどいろいろなこ

とを話し合ったものです。机に向かってした勉強はあまり覚えていませんが、先生と話したいろんなことは今もなつかしく思い出します。

卒業式は兵舎によく似た教室で、土足のままで行いました。何もなかった時代でしたが、私たちが一期生ということだ「歴史を創るのだ」という誇りのようなものはみんなの心の中にあつたようです。畑の真中だった山手中学校の周りは今やすっかり都会化してしまい、校舎も新しくなり、昔の面影はすっかりなくなつてしまいました。しかし私たちが感じていた「自分たちが歴史と伝統を創るのだ」という気概みたいなものはいつの時代の生徒も持ち続けてほしいなあと思います。

在校生の皆さん、五〇年という伝統の上に、さらに素晴らしい山手中学校の伝統を重ねていただくよう、これからの学校生活を明るく、楽しく、元気にがんばってください。



思い出をめぐらさず

恩師

遠藤 寛子

(児童文学者)

山手中学校創立五〇周年おめでとうございませう。

私が新人教師として赴任したのは、創立後数年の昭和二七年春で学校のまわりは万古焼の煙突と住宅街、大きな竹やぶと畑など。畑をへだてて羽津病院がめだつ建物で、裏は牧場が広がり、のどかに牛がなっていました。

私は学業を続けるため上京される水谷先生の後任でした。丹羽校長先生が「生徒の皆さんにはわからないだろうが、水谷先生は商業学校から旧制高校へ入学という難関を突破された方で」といわれた時、(まあ、大変な秀才の後任が私でいいのかな)と心配になりました。事実水谷先生は後に明治大学の教授になられたようですが、そんな私が心もとなかったのでしよう、学校では寺村(内田)文江先生の副担任につけて下さいました。寺村先生はお若いけれど行き届いた方で、さぞご迷惑だったでしょうに、親切に助言して下さい、何とか一人前になりました。忘れられない思い出はたくさんありますが、その中のいくつかを。

二年の新担任になって早々、男子生徒達が掃除の時間にエスケープしました。お説教をと一旦もどった職員室から教室

にいくと、教卓の上に土筆(つくし)で文字が書いてあります。「ゴメン、コレセンセイニアゲル」ふと窓を見ると、いが栗頭がいくつか見えかくれ。牧場へ遊びにいったのです。つい叱言は甘くなりませんでした。

何年目の三年担任の時、卒業式の式次第について、元気のよい男の先生が「『仰げば尊し』は時代遅れやで歌うのやめとこ」と提案、結論が出ないうちにこのことを聞いた生徒達が自分達の意見をまとめ、生徒会の代表が職員室にやってきました。「先生、ぼくらあの歌を歌わんと卒業式の気分になりません。歌うことにして下さい」こうして「仰げば尊し」は歌う事に決定しました。嬉しかったですね、いいえ、この歌の可否でなく、生徒達が自分達の意見を育て、生徒会を通じてそれを伝えてきた事が、です。生徒会はまだ揺籃期でした。

悲しい思い出は担任していた羽場君(羽場先生令息)が数日の入院で急死した事です、前途ある若い人の死は、殊にいたましいことでした。

学校で購読していた毎日中学生新聞で中学生向けの児童小説の募集を知り応募してみたのもこの頃でした。児童文学は

はじめてでしたが、生徒が「わからん」「むずかしい」という万葉集を素材にした作品が入選、連載されました。同僚は気がつかれなかったようですが、生徒はすぐ見つけて「あれ、先生のやろ。」「これからどうなんの」などと熱心に読んでくれました。そしてこれが今日まで続く執筆生活のスタートになりました。

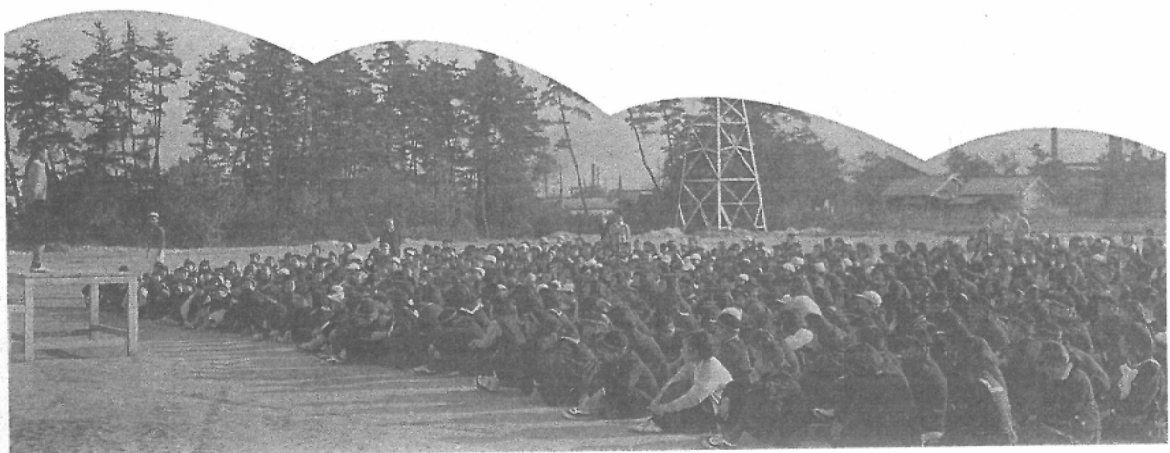
執筆活動のかたわら、今も週に一度幼稚園や保育園の先生を養成する保育専門学校で児童文学の講義をし、若い人たちとの接触がありますが、やはり一番印象に残っているのは、新人教師として勤めた山手中学、その生徒の皆さんです。

当時の教え子の中で、伊藤武、伊藤真司、川村泰士、井出一夫等の諸君とは今も交流があり、皆さん社会の中核として活躍していられるのは、旧担任として嬉しく誇らしい事です。

在学中一家でブラジルへ移住した伊藤昭代さんや、その他の外国へ移り住んだ人たちが、卒業後連絡のとれなくなった皆さんも、きつと元気でがんばっていられるでしょう。御多幸を祈ります。

今も思いがけずふと口をついて出る「鈴鹿山なみ雲はあがり 海蔵羽津に春はけむる」の美しい校歌。今も歌われているでしょうか。

職員OBならぬOGとして山手中学のますますの発展を祈ります。在校生の皆さん、二度とは来ぬ十代の日を悔いなく過して下さい。





祝 辞

用 務 員

堀 田 弘 子

(第二回卒)

私は、本校開校の年に新制中学一年生に入学、同じく父親も学校の用務員(当時の小使いさん)として住み込みで就職、そのお陰で父親の仕事を手伝いながらも、三年間無事に卒業することができました。その後、昭和三四年に用務員として本校に採用され「一八年間もの長い間勤務する事ができ本当に感謝しています。今、山手中学校で過ごした一八年間を振り返り思い出される事は第一に着任した時、真新しい体育館が完成したばかり、それに支関及び職員室他管理棟が北校舎から南側に新築され運動場も拡張されていました。でも校舎は、まだ私達が卒業した一〇年前当時と同じ木造の平屋建て、その後プールが完成され、その年だったと思います。ですが校歌も出来、年々校舎も改築、増築、だんだん現代化、学校の周辺も畑が無くなり、民家、商店、スーパーと、山の手の姿が変容してきました。でも学校内では、全体がとても人情のある、家庭的な雰囲気であったなあと感じます。今も昔も同じ、善し悪しの意識もなく悪戯をした時、先生方は我が子を叱るのと同じ様に、とても厳しく、時には先生も生徒と一緒に涙をためながら「今では体罰と言うのでしょうか」手を上げられる

事もしばしばでした。でも父親の方も、自分の目のとどかない所での躰けと理解し感謝こそすれ、怒ったり、訴えたりするどころか先生、父兄(PTA)一体になつて子供第一に考えていたように思いました。私のいる頃は、世間や他校では、家庭内暴力、校内暴力などと耳にしましたが、本校では、せいぜいトイレの下駄やペーパー等を便器に突っ込み詰まらせ困らせる位でした。先生方とは異なりですが、私なりに生徒とのふれあいは大切でした。時には「学校のおふくろさん」とも呼ばれ、自分自身もそう有りたいと努力もしました、当時はまだ世間一般に裕福とはいえず、弁当は勿論朝食もせず「腹へった死にそう」と入って来る子もいました、私もゆとりが有る訳ではありませんのでお茶を沸かしながら、かまどで焼き芋を作り食べさせたり、冬には最大レンタン六個をおこし全校生徒の弁当当温、上段と下段を入れ替える時の大変だった事、クラブ活動の所へ行き、生徒と一緒に汗を流したり、戸締めに廻りながら教室に残っている子供と雑談をし親近感をつのらせたものです。



祝 辞

株式会社CTY代表取締役専務

森 紀 元

(昭和三〇年卒業)

先日、創立五〇周年のご案内を頂き、思いも新たに母校とその周辺を車で走ってみました。緑深い垂坂山も都市開発が進み、広々とした丘陵地帯も、大きな団地、住宅が軒を連らね、我々の在校時の面影はなく、思い出を手練つて山頂に向かって少し歩いてみました。「今上天皇御駐蹕處」の石碑を探しましたが見つからず、公園の管理人に尋ねて行ってみると、水道局の大きなタンクのそばに碑がありました。その南隣の下を幹線道路が走っています。夏草が繁り蝉の声が忙わしく、僅かではありますが昔の名残りを留めているなあと、懐しさが込み上げてきました。そして、この辺りで友とよく語り、よく遊んだことが蘇ってきて、暫く感慨に耽つておりました。

私は昭和三〇年の卒業ですが、三年生のときには普通のクラス分けとは別に、学力別の雪・星・花・月の特別学級があり、テストの結果によりクラス替えがあつて、非常に厳しいものでありましたが、先生方は温かく、和気藹々の中、本当に親身に指導してくださったものでした。又、クラブ活動では、好きな卓球部に入りました。当時は体育館もなく、上級生は机・椅子を片付けた教室で、下級生は廊下での練習と満足のいくものではなかったのですが楽しくやっておりました。その後も卓球を続け、今、四日市卓球協会の会長を務めさせて頂いております。近年の情報化社会の波は、教育分野も例外ではなく、オン・デマンドによる遠隔授業、ケーブルテレビを利用した小・中学校間での自主番組の制作・放送、生涯学習・学校教育に関するデータベースの活用、電子図書館等が取り入れられて来っており、特にインターネット導入が全国の学校で盛んとなって来ています。これは、通産省が文部省の協力を得て実施した、いわゆる「二〇〇校プロジェクト」によって、'95年に学校にインターネットが入り始めたのがきっかけで、予想を上回る速さで教育現場に広がってきました。例えば電子メールにより、国内はもとより海外の中学生との情報交換、語学力の向上、異文化への理解等、国際化時代に対応できる教育がより可能となります。私も、地域の情報化の一翼を担うべく努力してまいりたいと思います。創立五〇周年を共に喜び、山手中学校が増々発展されるようお祈り申し上げます。



祝辞

恩師

安田 日出磨

「古城の址の きよきこの丘辺
わが学び舎の いらか高し」

古跡の郷、志氏ヶ野に建つ山手中学校
を、校歌の作詞者、木俣修先生はこう詠
まれている。

私が着任した昭和三五年は山手中学校
が現在地に、木造校舎三棟の落成をみて
丁度十年を経た年であった。ミニサイズ
の体育館も前年に完成し、戦後ベビーブ
ームの到来を告げる中、各学年五・七学
級の編成で、校内が賑いと活気に満ち溢
れた頃であった。

築後十年とは言え、何しろ旧軍の兵舎
移築になる中古の校舎。力の余った生徒
の足蹴にされ、こぶしの試し打ちに会っ
て、壁は崩れ、はめ板は破られ、床は隙
間だらけで建物全体、いわば万身創痍の
状態であった。それでも、掃除の時は真
面目に箒を手にし、水ぶきも丹念にした。
床やはめ板のササクレが多く、雑巾を絞
り過ぎるとトゲが危ないので、べたべた
雑巾のまま事をすませるので、掃除のあ
とは水打ちでもしたような光景であった。
狭苦しく、老いたあの学び舎には、硬
軟・悲喜こもごもの思い出が詰っている
のを感じる。

T先生は思い出深い先輩教師の一人だ。

戦争中に外地に赴かれたとか。何となく
大陸的な風貌を感じる先生だった。老境

の趣きをただよわせる中に、燃える目指
しを生徒に向け、「お主はどうしたそん
なことしたんじゃね」と諭されるやさし
さと心根の温かさに、未熟者の私はいつ
も感動させられた。人間の風格とはこん
なものなのか。

平成三年正月の七日、T先生は静かな
永遠の眠りにつかれた。

晩年は、好きな酒をたしなみ、書を習
い、絵筆をとり、漢詩を詠んで一日一日、
楽しくも心の世界を歩みつつげられたと
聞く。

A君は三年生になって岐阜市から転校
してきた。障害をもつ彼は十八才。妹の
K子さんと二人で私のクラスに入ってい
ただいた。雨の日も雪の日も、一年生の
Y子ちゃんと二人での通学の日々だった。
リヤカーを改良した三輪車もどきの「車
いす」を二人の妹は押しての毎日。A君
の懸命な生きざま、そして三人の兄妹愛。
教師である私が多くを学ばせてもらった。
K子さんは長じて看護婦さんになった。
A君は卒業三年後に他界した。淋しい。



祝辞

市立四日市病院

副院長 伊藤 八峰

(昭和三二年度卒業)

昭和三年に、山中を卒業した仲間も、
白髪になり孫ができる年令になりました
が、今でも二・三年に一度はクラス会を
行って当時を思い出しています。当時は
一クラスは五〇人以上、AからEまであ
り、羽津、海蔵の仲間が、ほそ道路も
ない、土ぼこりの道を、歩いたり自転車
で通いました。春は菜の花が一面に咲い
ていました。皆貧しく弁当の中味は、辛
い塩ジャケケの事もありました。当時
朝鮮の友達も何人かいて、たしか北朝鮮
へ帰ったと思う優秀だった安田君はどう
しているだろうか。放課後は、いつも掃
除の時間、雑巾の投げ合いをしてヤンチ
ヤだった扇谷君も今は亡い。音楽の時間
は、若いポツチャリした柏原先生で、名
曲のコードを聞いたり、合唱したり皆楽
しみでした。はじめて聞いた、幻想即興
曲(シヨパン)は今でも鮮明に覚えてい
ます。二年生の時に授業をさぼって皆で
垂坂山へ、カンケリをして遊びにゆき、
伊藤正男校長に全員大目玉を食い、両親
がくるまで、教室に残された事もありま
した。中間・定期テストの結果は、渡り
廊下に、墨で一番から順に発表され、一
喜一憂したものでした。体操の若林先生
の授業では、男子は蹴上りができないと

駄目で、皆手の血豆がぶれる迄、練習
をしました。器械体操のトリコになった
川村君は、後に日体大にすすみ、今は海
星高の教頭である。勿論、男は学生服、
女はセーラー服であったが、朴歯のゲタ
をはいたり、少しワルの子は、オケ帽を
かぶっていた。冬は、北風が冷たく、時
間外は、皆で日なたほっこ、相撲、馬と
び、押しくらマンジュウをして暖め合っ
た。クラスの半分が就職、残りが進学
の時代であり、家の仕事の万古のカタ運び
をして、腕つぶしの強い喧嘩に近藤君は、
その後仁侠の世界で名をなした。英語の
荒木先生は、大変教育熱心で、単語カー
ドや英語のレコードを聞かせてもらい、
暗記する事の重要性を教えてもらった。
今でもJACK and BETTYの最初
を覚えている。荒木先生は怒ると、とっ
ても恐く、真っ赤になられ、その教育熱
心さに、英語の授業は人気があった。断
片的な文章になりましたが、中学生時代
には、いっぱしの大人になった様な気持
で、世の中の事を分かったつもりで、い
ばっていた様に思い出されます。でも僕
の人生にとって最高の時代でした。



祝 辞

NHK・ドラマ番組部
チーフ・プロデューサー
木田 幸紀

(昭和四十四年度卒業)

昭和四十二年四月から四十五年三月までが、ぼくの在籍期間です。
目をつぶると最初に浮かんでくるのは、一年生の時に使っていた古い木造校舎の窓から見た、夏の陽を照り返して真っ白に見える校庭です。雨の日もあったようですが、中学校というところ、なぜかいつも目に痛いような白さの校庭が思い出されるのです。

音楽も聞こえてきます。今はすっかり中年の渋い役者になっていますが、ぼくも一緒に仕事をしたことのある沢田研二さんや萩原健一さんが、グループサウンズと呼ばれ爆発的な若者の人気を集め出していた頃です。それまでは聴くだけが唯一の方法だった音楽の楽しみ方が、グループサウンズやその後のフォークソングブームの影響で、自分たちも演奏しようという形に変わりました。ぼくもギターを一本小遣いをはたいて買い込みましたが、そんな生徒が急に増えた。授業の合間に机を叩いてドラムの練習をする子もいる。音楽が生活に溶け込んでくる最初の時代だったのかもしれない。
日本のものばかりではありません。むしろ欧米のポピュラー音楽がすぐにぼくたちを夢中にさせたのです。そこで英語

との、教科書をはなれた出会いがありました。なんとか歌詞の意味を知ろうと辞書をひくのですが、ろくに文法も知らないで単語ばかりを手がかりに当て推量をしてよくは分かりません。けれどもその頃覚えた幾つかの英語のフレーズは、繰り返し歌ったせいでしょうか、今でもそこだけはネイティブスピーカー顔負けの発音なのです。ポップスの英語はとも身近にありました。

音楽と英語は、ぼくの中で奇妙に混じり合っています。グループ単位で勉強することが多かったのですが、同じグループに、まさに机を叩いてドラムを練習する生徒がいました。彼は勉強嫌いなのですが、英語だけは精を出すのです。グループのメンバーが互いに教えあったり、競いあったりしました。個性も生活も、将来の方向もさまざまに異なる生徒同士が、一曲の英語の音楽に取り組んだりすること、お互いが異なることを面白がりながら交流していたのです。
そんなことは、その後はありません。かけがえないことだったと思います。だから校庭はいつも陽を浴びて白くまぶしいものかもしれません。



祝 辞

十一代校長
豊田 量雄

このたび、山手中学校が創立五十周年を迎え、五〇年の歩みを記録に残すため記念誌を作成し、又、創立五十周年の記念式典を計画されていると聞き、大変喜ばしいことだと思います。

私は昭和五十一年四月より五十五年三月までの四年間、十一代山手中学校校長としてご厄介になりました。もう二年前のことになり、何分にもひと昔前のことで記憶は確かではありませんが、山手中と羽津中との分離前の様子について、次の記憶に残っている二つのことについて述べてみたいと思います。

一つめは生徒数の多かったことです。この当時の生徒数は千三百有余で、県下でも最大の中学校でありました。狭い体育館での集会で、全校生徒の前で話しをするとき、見えるのは顔、顔、顔で全く床が見えない位、生徒数が多かったのです。体育祭は見事なもので、入場行進のときこれでしまいですかと聞いたら、もう一学年ありますと聞き、うんざりする程でした。修学旅行のときもバス十台で、十分のトイレ休憩も一時間かかり、遠足の社会見学時のバス三十台、校門前の道路にずらり並んだ光景は、これ又見事なものでありました。

二つめは昭和五三年、一九七八年は、山手中創立三〇周年に当り、この間、八三一人名という多くの人材を世に送り出し、社会の発展に寄与してきましたが、生徒数の増大により収容しきれなくなり、山手中は昭和五四年に羽津中学校と分離独立する運命となりました。長年海蔵、羽津、大谷台地区の中学校として親しまれてきたその歴史も終ることになりました。この歴史的な区切りを記念するために、同窓生名簿の作成という難事業が、同窓会実行委員会のメンバーや、各年度の幹事さんが推進力となって、幾度かの会合の末、苦勞の末、遂に完成されました。又、本名簿の作成や分離に際し同窓生各位並びに地域の皆様から多額のご寄附と広告のご協賛を賜りましたことは大変ありがたかったです。分離のための羽津中への移転の作業は大変なものでありましたが、昭和五四年に無事立派に山手中学校と羽津中学校の新しい二つの中学校が誕生しました。かつて、日永小学校を泊山小学校と分離させて以来、私にとつては二度目の分離独立の経験でありました。



羽津中との分離当時

三十二代PTA会長

山本悦雄

山手中学校創立五〇周年、心からお祝い申し上げます。

私は、良き伝統と校風を誇る山手中学校が生徒増によって二校に分離独立をした昭和五十四年に、PTA会長をさせていただきました。 (昭和五十四年四月、山手中学校は十七学級、七二一名、羽津中学校は十五学級、五七六名で二校が発足) 山手中学校創立以来苦楽を共にされた、と言いますと大げさですが、羽津地区の方々と別れて、新生、山手中学校発足一年目ということで、各役員、委員の方々、そして会員の皆様のご協力を得て各部の活動をより積極的に行なうよう努力しました。

教養部におきましては、地場産業である万古焼に関係の深い、地元陶芸家の作品を寄贈いただき、それは今もなお校長室のガラスケースに永久保存されています。

次に印象深く思い出される行事の一つにバザーがあります。なにしろ分離して初めてのバザーでしたので、皆が一丸となって準備、会場整備をしました。おかげで出品点数が数百点となり利益金を集中豪雨で被害を受けたグラウンドやコート

の整備に当てることができました。

このように、分離により会員の数は減少しましたが、各行事は分離する前と同じようにしなくてはという思いで力を入れて行なったことを思い出します。

分離という節目の年に会長をさせていただき、当時は夢中でやっていました。今となつてはどれもこれもなつかしい思い出で、会長という大役を無事乗り切れたのも、他の本部役員、委員、会員の方々のおかげであったと今さらながら感謝の気持ちでいっぱいです。

以後山手中学校のPTAは退きました。が、学校のことはやはり気になり、運動部の試合結果などの新聞記事に山手中学校の文字を見つけると、思わずうれしく、誇らしい気持ちになったりしています。

在校生の皆さんのご活躍をお祈りすると同時に、いつまでも山手中学校の生徒たちに目を向け、見守っていきたくと考えています。



祝辞

恩師

桜井 稔

(四日市少年センター所長)

久しぶりに、山手中時代のアルバムを開きました。

きっかけは、「一九六七年に卒業し三〇年という記念の年となりました。そこで、記念同窓会を開催いたしますので、懐かしい皆様のご参加を心からお待ち申し上げご案内致します。」という案内状を手にしたことからです。

六〇年代末という、「ウルトラマン」や「巨人の星」が茶の間を占領し始めた頃だったでしょうか。

四半世紀以上も過ぎてはいますが、アルバムを繰っているうち、断片的な記憶も点から線に、さらに、面へと広がっていきます。ちょうど、ジグソーパズルのひとこまひとこまを埋めていくように、そこには、教室の情景を始め、クラブ活動・体育祭・修学旅行などが、ひとりひとりのエピソードも交えながら映し出されてきました。

画面の生徒たちは、いずれも輝きに満ちた姿で、また、ひたむきな姿で登場してきます。それに伴って誘い出されてくる思い出の色調は、生き生きとして屈託のない明るさにあふれています。

いくつかの場面の中で、私にとつて最も印象的なのは、生徒会を中心にした

頭髪の自由化への真摯な取り組みです。目的の達成はなりませんでしたがそこに、中学生という時代を強靱に、そして、しなやかに生きる若者の姿をかいまみることができました。このことは、後の私の若者観に少なからぬ影響を与えてくれたのです。

さて、あれから三〇年ほどの歳月が流れ、すべてが大きく複雑に変化していきました。

その中で、皆さんは、

人々同じく風雨にさらされども

甘き人あり

酸き人あり

辛き人あり

とうたわれたように、さまざまな考え方で生き方を互いに認め合いながら自己を發揮させ伸ばしてこられたに違いありません。

今、こうして不惑の年代を過ごしておられる卒業生の方々と共に、山手中創立五〇周年をお祝い、今後いつその充実の発展をお祈りいたします。



祝辞

ジュビロ磐田

尾崎 勇 史

(昭和五八年度卒業)

五〇周年おめでとうございます。

私の中学時代といえば三年生になるまで、特に何になりたいとか具体的な目標もなく生活を送っていたと思います。そして高校受験にあたってサッカーで有名になろうと決め、この頃からサインの練習を始め、卒業の時にクラスメイトに書いたことが思い浮かびます。今は書く機会が増え簡単になりましたが長い間使っていました。

私は小学四年生からサッカーを始め、中学生の時に全てのポジションを経験しました。また中学で日本社会における上下関係(先輩、後輩)を学びました。そのことが今のサッカー人生のなかで大いに役立っています。いま思えば特に、全てのポジションを経験したことで、その人たちが何を考え、何をしたいのか気持がよくわかります。また、このように指導して下さった先生に非常に感謝しています。

私の中学時代のサッカーの成績は、三泗地区の新人戦ベスト8が最高です。トレセン(選抜)に入っている選手もなく、みんなが伸び伸びプレーをし、楽しくやっています。しかしその中

にも人に負けたくない、うまくなりたいたいという意識を持っていました。やはりこういう気持をもってやるのが大切だと思っています。

私もあと何年現役でできるかわかりませんが、いずれサッカーを指導する仕事に携わりたいと思っています。そして世界と戦える選手を育てたいと思っています。

今のサッカーの時代は国際交流がさかんで、いろんな国に行けます。夢を持ってがんばって下さい。



Jubilo
ゆびろ

マンモス校に赴任して

恩師

藤田 泰 樹

昭和五一年四月一日、私にとってこの日は教師として歩みだした記念すべき日となっています。その第一歩を記したのが、この山手中学校でした。

当時、山手中学校は二五学級を有する市内でも有数の大規模な学校でした。まだ、四五人定員の学級の時代ですからこの規模でも千人近い生徒がいました。先生の数も五〇人を越えていました。

この学校で本当に自分は先生が勤まるのだろうかと不安を抱きながら、しかし、頑張ろう、やるぞ、という気持が同居するなかで校門をくぐったことが思い出されます。

このころ山手は、集団学習の研究指定校として研修を重ねていました。いまだは当り前のようになっていた班での学習、生徒同士の学び合いなどが実践され、教師も生徒も互いの意見をぶつけ合いながらとても活発な活動が進められていました。

生徒会活動や学年活動も盛んで、学年での学級対抗のゲームなどもよく行っていました。私の担当した学年は9クラスありましたが、そのなかで行う団結の樹や知恵の輪といったゲームは各クラスが本気になって競い合い、楽しい思い出

してのこっています。

五二年にはこの研修を全国に向け発表し、その年のうちに三回公開授業を行いました。自分としても思い出深い年でしたが、私のクラスの生徒にとってもまず経験することのないものとなっただろうと思っています。

五三年は山手中学校が最大規模になった年です。一年一〇組、二年一一組、三年九組合計三〇学級になりました。翌年の春には羽津中学校と分離した年で、この年が山手中学校の最大学級の年となっています。五四年の三月、最後の卒業式が昔の体育館で挙行されました。講堂と併設の古いタイプの体育館で床も沈んでしまうところがあるようなものですが、三八一人がひとりづつ卒業証書を受け取りました。

わたしもこの卒業生とともに山手中を終え、羽津中学校へ異動しました。しかし、この山手中学校の三年間は、私にとっては本当に充実したそして、忘れることのできないものとなっています。教師として生徒とともに育ててもらった学校であり、地域なのです。

これからもさらに山手中学校が発展されることを期待しています。



祝 辞

卒業生

樋江井 聡 子
(昭和五九年度卒業)

私が中学校の教師になりたいと思ったのは、中学生の時でした。

中学校に入學して、友達が増え、多くのことを経験し、何よりも自分の世界が広がったような気がします。友達とけんかしたり、先生に叱られたり、いやなことやつらいこともなかったわけではないけれど、毎日がとても新鮮で楽しかったことを覚えています。そして、私たちがいつも支えてくださったのは、先生方でした。いつも親身になって私たちのことを考えてくれる先生、やさしさのなかに厳しさのある先生、ユニークな先生、授業で熱心に教えてくれる先生と様々でしたが、どの先生もすばらしい先生方ばかりでした。そして、中学校を卒業する日に「私も中学校の先生になりたい。こんなに楽しい毎日を送れる中学校で、先生として過ごしてみたい」と強く思いました。

その願いがかない、今、母校に勤務しているわけですが、勤務の初日は、緊張と同時に、大変なつかしかつたことをよく覚えていきます。

教室や廊下などいたるところに思い出がいつばいでした。

とはいえ、生徒から先生へと立場がか

わると、そう思い出ばかりにひたつてもいられず、毎日の授業をこなすのがやっとなりました。何をやってもうまくいかず、落ち込んだり、先輩の先生方がとても立派に見えて、私にはできないと自信をなくしたり、このまま続けていけるだろうかと不安になることも度々でした。しかし、そんな時に勇気づけられたのは、何よりも生徒の笑顔でした。「まだ自分の納得がいかないのに、途中でやめられない。みんなの顔を思い浮かべると、そんな気持ちになるのです。」

「教師」というのは物事を教える立場にあるけれど、教えることよりも生徒から教えられることの方が多いとつくづく感じます。

世の中には色々な立場の人がいること、人と人との触れ合いがいかに大切かということなど、生きていく上で大事なことを私は生徒から教えられたように思っています。

私は、教師としてまだまだ未熟ですが、これからも生徒といっしょに多くのことを吸収し、ともに成長していきたいと思っ



五〇周年を迎えて

生徒会長

山中 良 介

僕はこの山手中学校五〇周年という記念すべき年の生徒会長になりました。

今から約一年ほど前の生徒会役員選挙に自分が当選したら、山手中学校の生徒だれもが自分も生徒会役員になってみたい、と思ってもらえるような執行部にしようという思いを持って立候補しました。

生徒会会長に当選した数日後、いきなり年に一度の一大行事、文化祭がやって来た。僕はまだ何をすればいいにかよく分からなかったもので、昨年の執行部のみなさんにアドバイスをしてもらい、自分達なりに精一杯の取り組みをしました。

もうすぐ山手中学校が五十年になるということで「私たちの表現、山手中五十年・今・二一世紀へむけて」という素晴らしいテーマのもとに、学年企画では、三年生は先生たちに校則・いじめについてなどいろいろなインタビューをしました。

二年生は、現在の私たちの想いは確実に二一世紀の未来へと続いている、というテーマで、劇「二一世紀から来た箱」などをしました。一年生は研究発表で、山手中学校の校舎や周囲・校則や制服の移り変わり、クラブ活動の歴史など、山手

中学校の歴史など、山手中学校の歴史五

〇年を調べました。

三年生を送る会では、執行部がいくつかの映画をリストアップして、そのなかから、「天使にラブソングを2」という映画に決まりました。この映画は、合唱コンクールで優勝を目指して、途中で仲間がバラバラになっても、一つの目標をもってみんながまとまっていくという映画でした。三年生の人たちは喜んでいました。すごくうれしかったです。

卒業式では、今まで一番近い年で、一番頼りになった先輩方が卒業して、これからは自分たちが引継ぎ張っていかなくてはと思います。

校則改正も校則自由の日を試みようとしたが、今一つ盛り上がり欠け、だんだん下火になっていきました。これから一人一人が、山手中学校の生徒として、自覚を持っていき今年の生徒会テーマのように「みんなの力で山手に新しい風を」というふうな、みんなが一致団結して取り組んでいけば、どの学校にも負けな

いすばらしい学校に変わっていくと思っ



五〇周年を迎えて

二年

馬場 深幸

入学してから約一年半が過ぎて、現在の私の学校生活はまあまあだと思えます。

中学に入ってから、いろいろなことが変わりました。校舎はもちろんのこと、服装も私服から制服に、登下校の道やその他授業内容等々…。

中学に入る前まで私は皮カバンに憧れていて、中学へ行ったら使えると楽しみにして、いざカバンだと思ったら普通の布カバン…。けど今は布カバンの方がたくさん入って便利かな、と思っと思っています。

また、小学校に比べて中学校では学校行事が増えました。小学校での大きな行事は運動会ぐらいしかなかったけれど、中学校では体育祭や写生大会、球技大会や文化祭など大きな行事がたくさんあります。それらをみんな考えて、創りあげていくことはとても楽しいです。

その中で印象に残っているのは去年の私にとっては初めて行った文化祭です。自分の通う学校で文化祭をするのは初めてだったのでどれもがとても良かったけれど、一番良かったというかおもしろかったのは三年生のコントでした。あまりにもおもしろかったので四回ぐらい続けて見てしまいました。今年は文化祭がな

く、合唱コンクールだけなのでとても残念です。

山手中学校は今年で五〇周年を迎えます。

私の父も山手中の出身者です。もう三〇年程も前だけれどその当時の卒業アルバムを見ると、まだ木造の校舎でクラブも今より多くて制服なども違います。

それに昔は羽津とも一緒でした。三〇年程でもこれだけ違うのに五〇年前はどういう様子だったのかなあ、と思います。

友達に「今の学校の様子をどう思うと聞いたら、少しつっぱっている」と返ってきました。私も少しそう思います。

より良い山手中を作っていくにはどう行動していけばよいのかということを考えながら、卒業までの学校生活を楽しいものにしていきたいです。



五〇周年！山手中学校

一年

服部 百合名

私は今年山手中学校に入学しました。

入学前の私の気持は、私には兄も姉もないので山手中学校はよくわからなかったのですが不安がありました。でも入学したから不安はフツと消えました。その理由の九七パーセントくらいは新しい友達が増えた事だと思えます。小学校の時、仲が良かった友達と別々のクラスになったのは残念だったけれど、今まで知らなかった子と友達になれてうれしかったです。

小学校と中学校でちがう所は、給食や弁当もちがうけれど私は授業ごとに先生がちがっておもしろそうだな、と思えました。実際、四ヵ月間体験して、やっぱり先生がちがうとおもしろいけれど、体育の後の教室の移動は大変だな、と思った。

それからテスト期間の時なんか、先生たちは自分の科目しかなくてうらやましいな、と思った。やっぱり中学生の勉強はむずかしいと思う。小学生の時もむずかしいところもあったけれど、もっとむずかしいと思う。中学生になって最初の方はよかったです。少しずつむずかしくなってきました。

二学期も、もっとむずかしくなるかもしれないけどついていけるように予習復習をきちんとしています。

中学校に入る前の楽しみの一つはクラブでした。でも先輩は厳しいのかな、という心配もありました。でも厳しくてもやさしかったり、おもしろい先輩もいて今は心配はありません。先生も練習の時ばかりで、しゃべっているときも楽しいです。毎日学活終了後クラブというのはけっこうえらいけれど最後までやって家に帰って冷やしたスポーツドリンクを飲むと、いつもよりおいしいです。

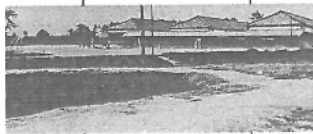
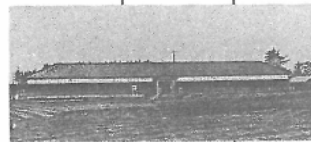
つきりして気持ちいいです。それに私だけかもしれないけれど今日も一日がんばったぞ、という気がします。

これが私の一学期の思い出です。でも山手中学校は、という五〇年の思い出があるんだな、すごいな、と思った。私のお父さんの生まれる前から建っているんだな。私はまだ四ヵ月しか山手中学校に通っていないけれど、今、山手中学校に通っている、生徒や先生みんなが山手学校の思い出のページをつくる一人一人なんだな、と思った。

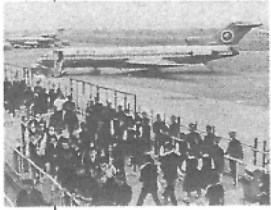

年

表

年	月・日	学 校 の 動 き	月	社 会 の 動 き	三 重 県 内
(昭四七)	4・4・15	新学制による中学校制度の実施。堀田吉雄氏、初代校長に補せられる。四日市市羽津海蔵地区を学区として四日市市立北中学校を開設する。四日市市立羽津小学校校舎の一部及び海蔵小学校校舎の一部を借用して開校する。 ※第一学年生は義務教育該当者で、二、三学年生は自由入学者	5・3	教育基本法と学校教育法が公布され、6・3制の義務教育開始。 日本国憲法の施行。	1月 小学校で学校給食開始。 11月 四日市市復興祭。
(昭四八)	5・2・13	四日市市立山手中学校と改称する。 学校統廃合の措置により羽津小学校校舎に移り、独立校舎をもつに至る。	6・4	新制高等学校（全日制、定時制）の発足。 福井地震。	3月 宇治山田で平和博覧会の開催。
(昭四九)	10・21	現在の校地に三棟の校舎の落成をみる。（四日市市東阿倉川70番地） 第一棟 三教室・玄関・職員室・応接室・宿直室・小使室 第二棟 六教室 第三棟 六教室 第一棟と第三棟に便所を一棟ずつ付設 器具室も一棟	12・11・11・5	国立学校設置が公布され、各都道府県に新制国立大学69校を設置する。（俗にいう駅弁大学） 湯川秀樹博士ノーベル賞を受賞。 プロ野球パ・リーグ結成。 プロ野球セ・リーグ結成。	12月 四日市港に原油第一船入港。
(昭五〇)			7・6・1	一〇〇〇円札（聖徳太子の肖像）発行。 朝鮮戦争勃発。（一九五三年まで） 警察予備隊新設。	
(昭五一)			9・3・3	無着成恭編「やまびこ学校」刊行。 三原山大爆発。 対日講話条約、日米安全保障条約調印。	
(昭五二)			10	日本父母と先生全国協議会（日本PTA）結成。	2月 四日市港特定重要港湾に指定される。
(昭五三)	8・1	新校舎（第四棟）の一部の完成をみる。 理科室・理科室準備室 便所一棟付設	2	NHKテレビ本放送を開始。	12月 松阪市と宇治山本市の10km道路開業。
(昭五四)			9・3	第五福竜丸、ビキニ環礁付近で操業中、アメリカの水爆実験に遭遇、「死の灰」を浴びる。 青函連絡船搭洞爺丸が台風15号の影響で転覆。	10月 四日市大協石油精製タンク爆発。



(昭37) 44 3025	(昭36) 4 30	(昭35) 10 3	(昭34) 953 26925	(昭33) 4 1	(昭32) 32 611	(昭31) 8 25	(昭30) 9 1
プール完成。(二五メートルの六コース) 技術科教室完成	新校舎(第五棟)・渡り廊下完成。	大阪府警察機動隊 協力す。	屋内運動場(体育館)完成。伊勢湾台風のため、次のような被害あり。生徒・職員・全壊9戸。半壊・床上浸水60戸。賀川隊長以下一四〇名来校駐留し、災害復旧に	屋内運動場(体育館)建設決定。広さ一八六坪 工費九五〇万円	校地拡張工事完成。校舎敷地 六一九三三坪 校舎敷地 四七三〇坪 校舎敷地 八二七坪	新校舎(第四棟)の残りの部分完成(第四棟完成)をみる。保健室・放送室・購買室・図書室と第一棟から職員室・応接室及び玄関を移設。第四棟を管理棟として整備する。第一棟の間仕切り工事と戸棚移築工事完成。校地拡張工事着工。	校地拡張計画が完成し、二千五百二坪の拡張をみる。
83	104	61	941	12531	10	42	10885
堀江謙一さんが小型ヨットで太平洋横断に成功。	ソ連、ボストーク一号の打ち上げに成功。人類初の地球一周有人飛行を行う。文部省、全国一斉学力調査実施。	中卒者は「金の卵」と呼ばれる求人難。新安保条約が発効。	メートル法の実施。皇太子殿下と美智子さんの結婚式。伊勢湾台風、明治以降最大の被害をもたらす。東海三県の被害死者行方不明四六三七人。全半壊・流失家屋一五万戸。被災者一二〇万人	アメリカ人工衛星打ち上げ成功。文部省は、小中学校「道徳」の実施要項を通過。公立小中学校の学級定員を50名とする。東京タワー完成。	ソ連、人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功。	日本の国際連合加盟の承認を得る。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(新教育委員会法)。	宇高連絡船「紫雲丸」が貨物船と衝突、修学旅行生百六十八人が死亡。森永ミルクとヒ素混入中毒事件。第一回原水禁止世界大会開催(広島) 国勢調査人口八九二万五二九人。 家庭電化時代、神武景気、マンボスタイル
9月 鈴鹿サーキット	1月 高花平団地造成開始。	7月 四日市市民ホール落成。	3月 三菱油化の四日市工場第一期工事完成コンピナートの初め。			2月 四日市港遠洋漁業基地指定。 9月 近鉄四日市駅新駅完成。	8月 四日市高校夏の大会で優勝。 全国高校野球大会

一九六九 (昭44)	5・10	校舎改築第二期工事着工。							
一九六八 (昭43)									
一九六七 (昭42)	4・26	校舎改築第二期工事(六教室)鉄筋三階建完工。							
一九六六 (昭41)	11・3 11・31	校舎改築第一期工事(八教室)鉄筋二階建完工。 校舎改築第二期工事着工。							
一九六五 (昭40)	10・3 21・15	宿直室・用務員室完成。 校舎改築第一期工事着工。							
一九六四 (昭39)									
一九六三 (昭38)									
	5・1	校歌発表会を催す。 作詞者 昭和女子大学教授 作曲者 木俣平井 康修 三郎							
	7	アポロ11号月面着陸。 大学闘争。							
	121063	「巨人の星」放送開始。 小笠原諸島が日本に復帰。 川端康成ノーベル文学賞受賞。 3億円強奪事件。							
	8	公害対策基本法公布。							
	7	「ウルトラマン」放送開始。							
	1061	中央教育審議会が「期待される人間像」の中間草案を発表。 日韓基本条約締結。 朝永振一郎博士、ノーベル物理学賞を受賞。							
	10109	王選手、年間本塁打55本の日本新記録を樹立。 東海道新幹線開業。 第18回オリンピックピック東京大会の開幕。							
	11111	テレビアニメ「鉄腕アトム」放映、大ヒット。 アメリカのケネディ大統領暗殺される。 初の日米間テレビ宇宙中継実践成功、大統領暗殺のニュースを伝える。							
	108	戦後初の国産旅客機YS-11が試験飛行に成功。 キューバ危機発生。							
	5月	中央緑地が完成。							
	10月	シドニー港と姉妹港提携を結ぶ。							
	9月1日	四日市公害訴訟提訴。							
	11月	伊坂ダム貯水開始。							
	8月	「大日市まつり」が始まる。 四日市で公害人体影響調査実施。							
	2月	名古屋、四日市間開通。(現在の国道1023号) ロングビーチ市と姉妹都市提携を結ぶ。							
	完成。								

<p>(昭五十一)</p>	<p>(昭五十五)</p>	<p>(昭四十九)</p>	<p>(昭四十三)</p>	<p>(昭四十七)</p>	<p>(昭四十六)</p>	<p>(昭四十五)</p>
<p>777 2722 北校舎(特別教室)工事着工。 テニスコート完成。</p>	<p>3 13 庭園(東側)卒業生記念寄付により完成。</p>	<p>876 201230 職員室前排水溝完成。 校舎改築第五期工事落成式。 運動場西側の南一部防球柵完成。</p>	<p>5 15 校舎改築第四期工事(特別教室一階・理科室、二階・調理室、三階・音楽室と同準備室)鉄筋三階建完工。</p>	<p>997 11114 クラブハウス完成。 校舎改築第四期着工。 理科室・同準備室取り壊し。</p>		<p>6 7 校舎改築第三期工事(六教室)鉄筋三階建増築完工。</p>
<p>21 鹿児島で日本初の五つ子誕生。(山下家)</p>	<p>11764 ベトナム戦争終結。 沖繩国際博覧会開催(メキシコ市)。 第一回先進国国際首脳会議(フランス)。</p>	<p>101073 小野田寛郎さん、ルバン島で救出。 堀江謙一さん、ヨットで単独世界一周。 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞。 長嶋茂雄、現役引退。</p>	<p>102 円変動相場制移行。 石油ショック、紙不足。</p>	<p>10 86 21 横井庄一さんグアム島で救出。 札幌冬季五輪開催(ジャンプ競技で金・銀・銅を独占)。 沖繩本土復帰。 日本男子バレーボール、ミュンヘンオリンピックで金メダル。 上野動物園にパンダ来る。</p>	<p>75 カップヌードル発売。 環境庁発足。</p>	<p>33 大阪で万国博覧会開催。 赤軍派、よど号乗とりり事件。</p>
<p>9月 三重国体が開催される。</p>	<p>7月 集中豪雨により、鹿化川、天白川、内部川など決壊、市内全域に多数の浸水被害。</p>	<p>10月 近鉄四日市駅付近の高架化工事が完成する。</p>	<p>2月 四日市市新庁舎が完成。</p>	<p>7月 四日市公害裁判、原告勝訴の判決が出る。</p>	<p>8月 東名阪自動車道の四日市・桑名間が開通。 10月 近鉄特急、青山トンネルで正面衝突事故。</p>	<p>4月 東名阪自動車道の四日市・亀山間が開通。</p>

<p>(一九九四 平六)</p>	<p>9 3 3 3 2 1 ・ ・ ・ ・ ・ 213030122811</p>	<p>屋内運動場屋根塗装工事着工。 屋内運動場屋根塗装工事完了。 西校舎外壁改修工事完了。 北校舎防水改修工事完了。 運動場防球ネット設置工事完了。 運動場改修。</p>	<p>(一九九五 平七)</p>	<p>8 ・ 31</p>	<p>普通教室(西校舎三階二教室)をコンピュータ室に改修。 普通教室(西校舎三階二教室と二階二教室)の床・間仕切り改修。</p>	<p>(一九九六 平八)</p>	<p>8 ・ 31</p>	<p>普通教室(西校舎二階二教室と一階四教室)の床・間仕切り改修。</p>		<p>(一九九七 平九)</p>	<p>8 ・ 29</p>	<p>特別教室(西校舎一階理科室・二階調理室・三階音楽室及び各準備室)床の改修。 普通教室(東校舎二階五教室)床の改修。 小会議室を男女更衣室及びシャワールームに改修。 四日市市立山手中学校50周年記念バザーを山手中学校体育館で開催する。 四日市市立山手中学校50周年記念式典を四日市ドームで開催する。</p>	<p>9 ・ 28</p>	<p>四日市市立山手中学校50周年記念式典を四日市ドームで開催する。</p>	<p>10 ・ 19</p>	<p>四日市市立山手中学校50周年記念式典を四日市ドームで開催する。</p>
<p>9 7</p>	<p>向井千秋さん、日本人女性で初めて宇宙へ。 イチロー、史上初シーズン通算二〇〇安打達成。</p>	<p>3 1</p>	<p>阪神淡路大震災、午前5時46分発生。震源地は淡路島北部。M7.2神戸市を中心として家屋の倒壊、火災など多発し、死者六四〇〇名を出す大災害となる。 地下鉄サリン事件。</p>	<p>6 7</p>	<p>アトラントオリピック開幕。 〇1157猛威をふるう。全国で子供、老人に死者出る。</p>	<p>7</p>	<p>火星探査機「マーズパスファインダー」が、エアバックを使用して、火星に着陸。</p>	<p>7月 市の祭典が四日市港を主会場に開催される。</p>	<p>8月 「女性セクタ」環境学習センター「環境学習センター」を設置。</p>	<p>4月 市の制一〇〇周年のイベント「よんぐいち百年大市」を開催。</p>	<p>8月 市の制一〇〇周年記念祭典を開催。</p>	<p>10月 市の制一〇〇周年記念式典を開催。</p>	<p>7月 「茶室「泗翠庵」が鶯の森公園内に完成。 10月 国民文化祭が開催される。</p>			

■歴代校長

代	氏名	在任期間
初代校長	堀田 吉雄	昭和二十二年四月十五日～昭和二十三年五月二十三日
二	坂上 長十郎	二十三年五月三日～二十六年四月一日
三	丹羽 正一	二十六年四月一日～三十年
四	伊藤 正男	三十年～三十五年
五	上村 楠之丞	三十五年～三十八年
六	生川 保生	三十八年～三十九年三月三十一日
七	藤合 幹	三十九年～四十二年
八	矢田 二郎	四十二年～四十五年
九	藤波 徹雄	四十五年～四十七年
十	安田 安信	四十七年～五十一年
十一	豊田 量雄	五十一年～五十五年
十二	藤堂 春雄	五十五年～五十七年
十三	横井 太三郎	五十七年～五十九年
十四	武藤 成章	五十九年～六十年
十五	渡邊 忠義	六十年～六十二年
十六	水谷 昭男	六十二年～六十六年
十七	橋本 宗夫	六十六年～七十年
十八	近藤 武次	平成二年～五年
十九	横井 弘	五年～七年
二十	小林 克彦	七年～九年
二十一	桐生 定巳	九年～



歴代 PTA 役員

年度	会長	副会長	書記	会計
昭和二十三	味香太郎	坂義一	寺本善一	中山清一
二十四	竹内佐一郎	熊沢通義	館佐市	小川孝
二十五	早川和一	森脇源太郎	藤井七三	館佐市
二十六	森脇源太郎	大野与惣右工門	森万次郎	伊藤弥一郎
二十七	藤井七三	山本真次郎	中山清一	森万次郎
二十八	山本貞三	藤井精一	松永兵太郎	中山清一
二十九	小川孝	伊藤泰一	大森次郎	水谷政男
三十	山梨喜一	森源吉	伊藤治	藤井富三郎
三十一	人見圭二	辻本吉太郎	生川久代	今村正秋
三十二	山本貞三	小川孝	小山由松	人見博二
三十三	早川和一	水谷彦太郎	川口武雄	中川末一
三十四	山本貞三	川口武雄	小山由松	森沢男
三十五	川口武雄	熊本捨松	人見圭二	野崎要太郎
三十六	辻本吉太郎	藤井泰治郎	小倉忠次郎	大森宗治
三十七	人見圭二	竹内好一	山本登	小倉忠次郎
三十八	日比義平	山本長一	小倉忠次郎	森良
三十九	加藤彰良	野呂正一	藤井由弘	徳丸三郎
四十	日比義平	安藤清軌	野崎宏	梅本甚一
四十一	森良	小山良一	川村佳夫	徳丸勇
四十二	日比義平	梅本甚一	渡辺昇	藤井正雄
四十三	森安吉	花井克巳	岩田時雄	岩崎睦男
四十四	山本喜之助	岩田時雄	水谷幸二郎	国広茂久
四十五	岩田時雄	花井克巳	六平豊司	立木義孝
四十六	井垣高雄	六平豊司	近藤一男	山本満
四十七	山本満	熊本陶三	谷嘉昭	太田重憲

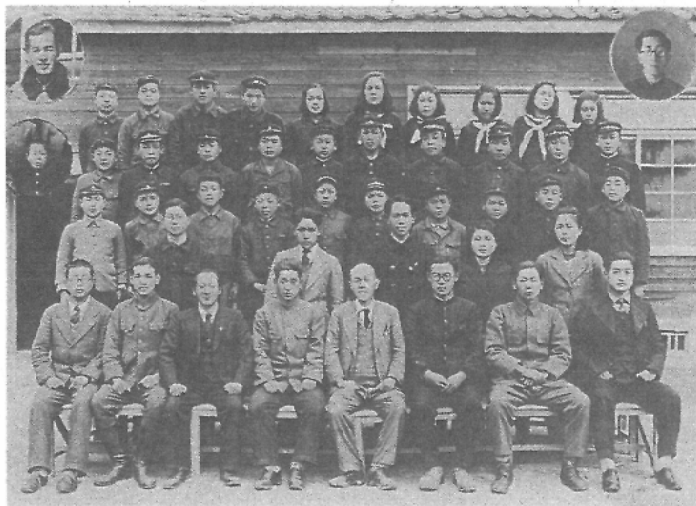
生徒数

年度	男子	女子	合計	学級数
昭和二十二	二〇一	一八七	三八八	九
二十三	三〇五	二八八	五九三	一三
二十四	三三九	三四七	六七六	一四
二十五			六七七	一四
二十六			六七二	一四
二十七			六一五	一三
二十八	三六七	三四一	七〇八	一三
二十九	三八八	三四五	七三三	一四
三十	四二二	三九九	八二一	一五
三十一	四二一	四三〇	八五一	一六
三十二	四三七	四二八	八六五	一七
三十三	三八五	三八二	七六七	一六
三十四	三五二	三四六	六九八	一五
三十五	三八八	四〇五	七九三	一六
三十六	四八三	五〇〇	九八三	二一
三十七	五三六	五八三	一〇七九	二二
三十八	四九七	五二〇	一〇一七	二三
三十九			一〇五九	二四
四十			九七〇	二二
四十一			八八四	二〇
四十二	三八二	三五八	七四〇	一七
四十三	四一七	三六二	七七九	一九
四十四	四一八	三八五	八〇三	一九
四十五	四〇八	三八三	七九一	一九
四十六	四四五	四三二	八七七	二一

年度	会長	副会長	書記	会計
四十八	山本良一	谷嘉昭	星合隆	山本小太郎
四十九	谷嘉昭	渡辺正	山本小太郎	浅岡功
五十	館隆男	久志本武	平野昭夫	木下久典
五十一	榊原馨	山本悦雄	久志本武	平野昭夫
五十二	河元治	山本悦雄	平野昭夫	藤井勝見
五十三	藤井勝見	浅岡功	平野昭夫	山本保敬
五十四	山本悦雄	榊原馨	篠田勇	山本保敬
五十五	内山哲也	森直子	水谷昭	熊本富郎
五十六	熊本富郎	佐久間照利	後藤克美	花岡鈴子
五十七	後藤武平	服部千鶴子	伊藤千秋	石崎英治
五十八	嶋津義正	北川俊子	小田啓子	中村昇
五十九	太田南海雄	吉田高敏子	飯島久美子	熊本博吉
六十	中村昇	田中順弘	川村文子	木沢洋児
六十一	加藤尚治	新木信洋	森田健子	水谷則幸
六十二	沼倉七五三	水尾則幸	木村ひろ子	伊藤泰光
六十三	水谷則幸	館村善孝	松井撰子	熊本博吉
平成元	館善孝	黒宮万亀子	竹内二子	後藤英己
二	稲垣繁	森好子	西脇光子	近藤好仁
三	森好生	近藤悦子	加福洋子	鷺野彰三
四	近藤好仁	伊藤丸藤	館ひろ子	伊藤富夫
五	伊藤裕	高阪律子	今村まさ江	迫田良信
六	笹岡秀太郎	小笠方節子	新屋宙子	伊藤清信
七	畑出英巳	新市正英	館初美	伊藤章
八	市野正人	館小初美	水谷幸子	越智優
九	小林孝	水加納幸子	伊藤節子	橋本一明

年度	男子	女子	合計	学級数
四十七	五〇〇	四五八	九五八	二三
四十八	五四〇	四八〇	一〇二〇	二四
四十九	五三九	五一一	一〇五〇	二四
五十	五四四	五〇六	一〇五〇	二四
五十一	五五二	五三九	一〇九一	二五
五十二	四九一	四九四	九八五	二三
五十三	四四一	四四一	八八二	二一
五十四	三三三	三六一	七一四	一七
五十五	三九〇	三六五	七五五	一八
五十六	三九九	三九八	七九七	一九
五十七	四五二	四二九	八八〇	二一
五十八	四六九	四二〇	八八九	二一
五十九	四九五	四二四	九一九	二一
六十	四八八	四三八	九二六	二一
六十一	四七一	四八五	九五六	二二
六十二	四六〇	四七九	九三九	二二
六十三	四五一	四四七	八九八	二二
平成元	四四七	四〇五	八五二	二二
二	四二一	三九〇	八一	二二
三	四一七	三七一	七八八	二二
四	四一三	三五八	七七七	二二
五	三九六	三六二	七五八	二二
六	三八六	三五八	七四四	二〇
七	三六六	三五〇	七一六	一九
八	三五二	三一	六六二	一八
九	三三五	三三二	六六六	一八

思い出のアルバム



第1回卒業生記念写真



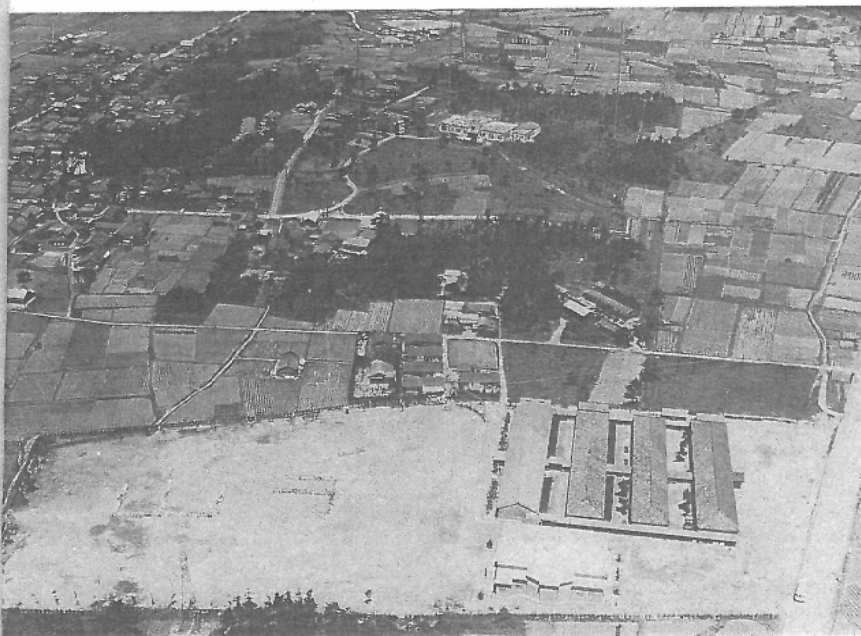
野球部の記念写真（昭和25年度）



奈良の修学旅行（昭和25年度）

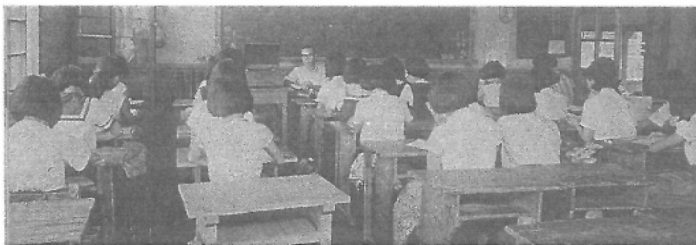


職員写真（昭和28年度）



現在の校舎配置（平成6年度）

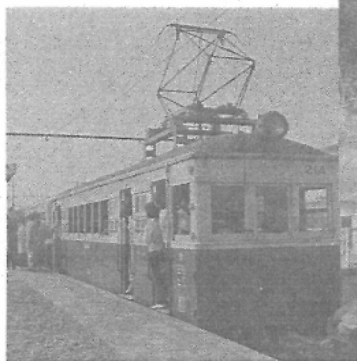
当時の校舎の配置や学校周辺のよくわかる航空写真（昭和34年度）



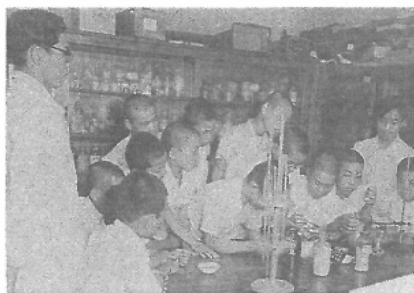
授業風景
(昭和31年度)



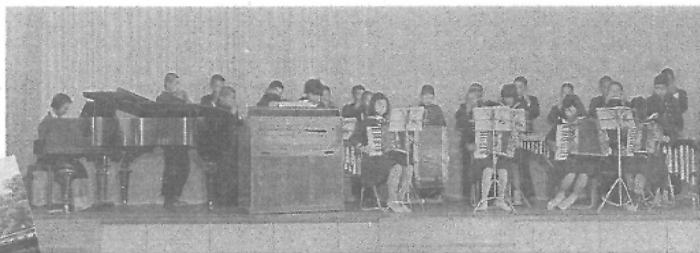
授業風景
(昭和31年)



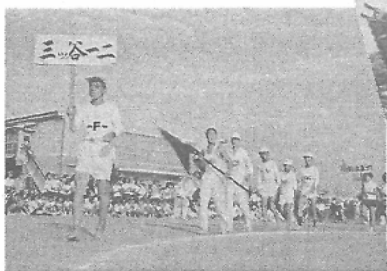
湯の山-の谷への遠足
(昭和33年度)



科学部
(昭和31年度)



文化祭(昭和33年度)



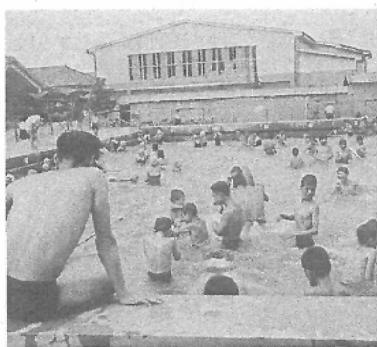
運動会(昭和36年度)



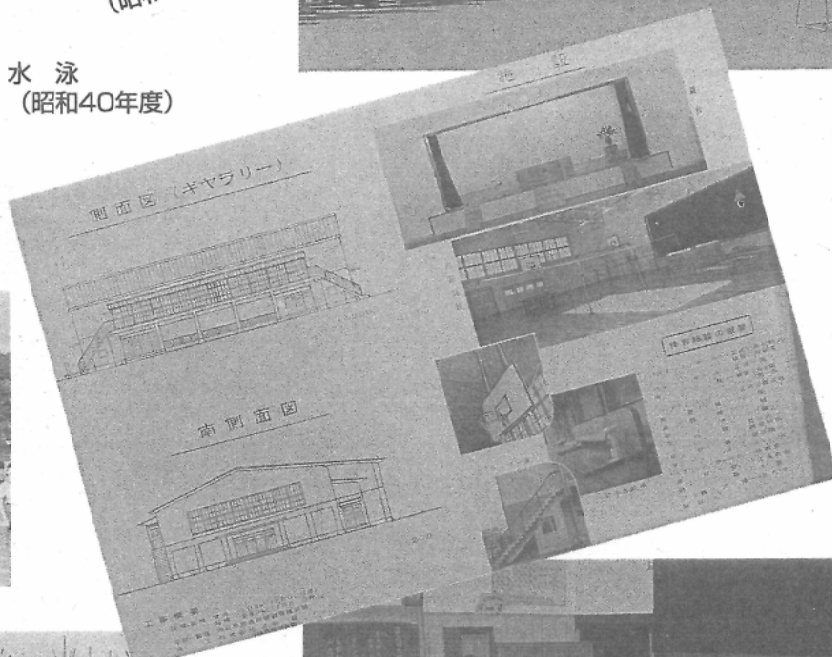
修学旅行
(昭和44年度)



集会(昭和33年度)



水泳
(昭和40年度)



体育館落成式
(昭和35年度)



修学旅行(昭和40年度)



山岳部
(昭和41年度)



生徒議会
(昭和41年度)

通知表

昭和24年度

第

號

組

生徒氏名

学年

科目	成績		評定	記録	
	期一	期二		期一	期二
算術	4	5	4	4	4
国語	4	4	4	4	4
理科	4	5	4	4	4
社会	4	5	4	4	4
音楽	4	5	4	4	4
体育	4	5	4	4	4
美術	4	5	4	4	4
英語	4	5	4	4	4
衛生	4	5	4	4	4
家庭	4	5	4	4	4
職業	4	5	4	4	4
総合	4	5	4	4	4
特別	4	5	4	4	4
その他	4	5	4	4	4

No. 31

昭和二十一年度

通信表

四日市市立山手中學

学年	期一		期二		評定	備考
	期一	期二	期一	期二		
算術	4	5	4	4	4	
国語	4	4	4	4	4	
理科	4	5	4	4	4	
社会	4	5	4	4	4	
音楽	4	5	4	4	4	
体育	4	5	4	4	4	
美術	4	5	4	4	4	
英語	4	5	4	4	4	
衛生	4	5	4	4	4	
家庭	4	5	4	4	4	
職業	4	5	4	4	4	
総合	4	5	4	4	4	
特別	4	5	4	4	4	
その他	4	5	4	4	4	

賞状
第三學年
内田文江
右者、ナルルに功勞ありしに付之を賞する
昭和二十六年三月十四日
四日市市立山手中學校

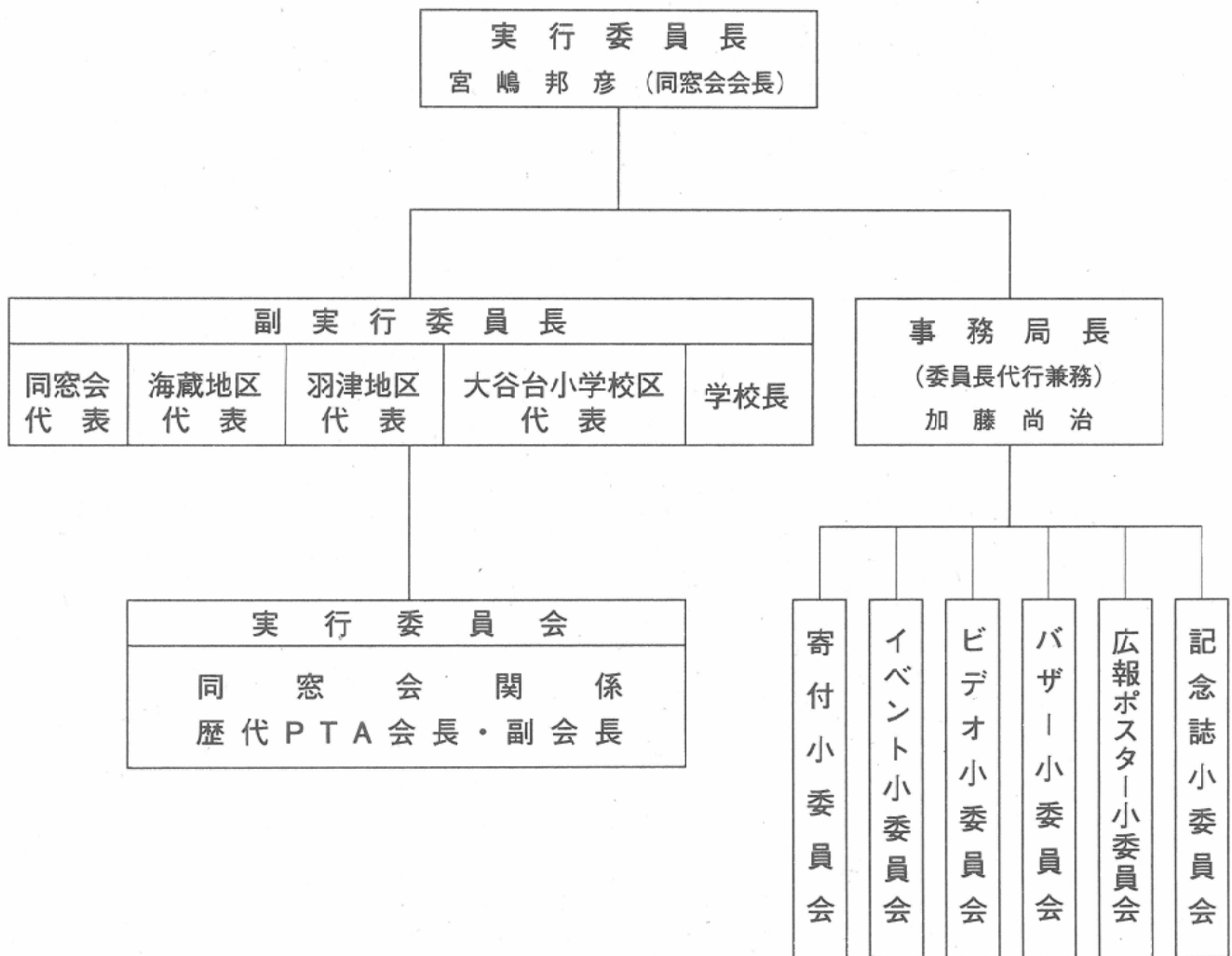
第一學年
内田文江
第一學期間學校委員を命じます
昭和二十一年四月十日
四日市市立山手中學校

賞状
第三學年
内田文江
右者、学校に功勞ありしに付之を賞する
昭和二十六年三月十四日
四日市市立山手中學校

賞状
第三學年
内田文江
右者、一学年間皆本席に付之を賞する
昭和二十六年三月十四日
四日市市立山手中學校

賞状
第三學年
内田文江
右者、成績佳良に付之を賞する
昭和二十六年三月十四日
四日市市立山手中學校

●50周年実行委員会組織表



○事務局長 (実行委員長代行兼務) 加藤尚治

○副事務局長 笹岡秀太郎

○事務局員

・近藤好仁 ・徳丸悦子 ・伊藤裕 ・高阪律子
 ・畑出英巳 ・新屋宙子 ・小林孝 ・水谷幸子
 ・加納哲夫 ・伊藤節子

○学校

・市川誠一 ・山本正人 ・米倉嗣人 ・伊藤信雄

○書記 ・小方節子 ・今村まき江

○会計 ・熊本富郎 ・市野正人 ・館初美

○会計監査 ・熊本幸平 ・星合保郎 ・藤井昌男

編集後記

五〇周年記念実行委員会

事務局 市野 正人

創立五〇周年を機に、何らかの記念事業を企画・立案したのは一昨年の今頃でした。準備委員会の発足から、実行委員会へと組織を充実させる中で、「愛と手作りの五〇周年記念」をコンセプトにこの慶事を在校生ならびに地元の皆様方と共に祝う事で方向づけられました。

記念事業の一貫として記念誌の発刊に際し、多方面の関係各位の御協力を仰ぎ発刊できました事を心より感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。企画当初は創立期より古い時代の資料が乏しく心配な点も多々ありましたが、事務局員中心に知恵を結集してまとめる事ができました。

昭和二十二年、戦後間もない創立当時から歴代校長・先生方・さらにはPTA役員の皆様方の御尽力により、今日に至る歴史的背景とその歩みを確実にこの記念誌に表現できればと思いつつ編集に当たりましたが、それは賢明な皆様の判断を仰ぎたいと思います。

これを期に、今まで培われた五〇年の歴史と実績を踏えながら、21世紀を展望しつつ、新たな今一步を踏み出す事とし、同窓生の皆様を中心とし山手中学校の増々の発展を願い願うものであります。最後になりましたが、五〇周年記念事業と記念誌発刊の機縁と榮譽を与えていただき、心より感謝申し上げますと共に、皆様に末永くご愛読いただければ幸いです。今後の皆様の御健勝・御多幸を祈り、編集後記とさせていただきます。



イヌナシ

山手

内容

NO.1 三重大
オーケストラ

NO.2 万古太鼓

NO.3 山手中
ブラスバンド

NO.4 全校合唱

NO.5 垂坂しずまい

NO.6 山手中50年のあゆみ



校章の由来

まず四日市市の港を
○で現わし、全体の△
は山手中学校の山を
現わす。中心の円を二
等分して上向に矢印
があるのは中学校の
中と中学校教育の金
的を正しく射とめる
ことを象徴している。



オオカ(トリ)



サカナ(サカナ)

50周年



50周年!

山手
中

